

# 2021 年度申請

初級地域公共政策士・資格教育プログラム

## 「自己点検評価書」

プログラム名 グローカル人材プログラム

実施機関名 京都府立大学

序章

プログラム概要（運営・実施体制）

プログラム名	グローバル人材プログラム		
対応資格	初級地域公共政策士		
EQF レベル	レベル6		
構成科目数	16科目 (2科目必修) (2科目選択必修) (12科目選択)	取得ポイント数	12
本プログラムの社会的認証期間	2022年4月～2025年3月末日（2024年度終了予定）		

実施機関名	京都府立大学		
実施部門	教務部		
プログラム実施責任者	長島 啓子		
プログラム担当者	長島 啓子		
事務担当者	鋪田 雅史		
事務担当者連絡先	電話番号：075-703-5118	Email：m-shikita77@mail.pref.kyoto.jp	
備考			

### 更新する資格教育プログラムの修了者数

(西暦)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
修了者数	0名	0名	2名	4名	5名	2名	1名

### 更新する資格教育プログラム科目の開講表

(西暦)		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
科目名		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1	市民参加論	○	○	○	○	○	○	○
2	京都の地域創生	×	○	○	○	○	○	○
3	キャリア入門講座	○	○	○	○	○	○	○
4	ケースメソッド・キャリア演習	○	○	○	○	○	○	○
5	環境共生フィールド演習Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○
6	環境共生フィールド演習Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○
7	地域創生フィールド演習	×	○	×	×	×	×	×
8	地域創生フィールド演習Ⅰ	×	×	○	○	○	○	○
9	地域創生フィールド演習Ⅱ	×	×	○	○	○	○	○
10	アジアの歴史と文化	○	○	○	○	○	○	○
11	国際政治	○	○	○	○	○	○	○
12	世界はいま (リベラルアーツ・ゼミナール)	×	×	×	○	○	○	○
13	アメリカと中国はいま (リベラルアーツ・ゼミナール)	○	○	○	×	×	×	×
14	現代イスラーム世界の文化と 社会 (リベラルアーツ・ゼミナール)	○	○	○	○	○	○	○
15	近代京都と三大学	×	×	○	○	○	○	○
16	京都学事始 - 近代京都と三大学-	○	○	×	×	×	×	×
17	現代京都論	○	○	○	○	○	○	○
18	京都の歴史Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○
19	京都の歴史Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○

### 軽微な変更の申請状況

	申請日	申請の種別	概要
1	H27. 12. 17	科目担当者の変更	<ul style="list-style-type: none"><li>・「公共政策論特講Ⅰ」の担当者を大島和夫教授（定年退職）から窪田好男准教授に変更した。</li><li>・「政治学特講Ⅰ」の担当者を欠員補充（新規採用）したため、科目担当者として玉井亮子准教授を追加した。</li><li>・「政策形成論特講」の担当者を窪田好男准教授から松岡京美准教授に変更した。</li></ul>

### 更新する教育プログラムの特徴

#### 資格教育プログラムの概要

本プログラムの概要は、以下のとおりである。

- ・将来の地域経済を支える中核的ビジネス人材である「グローバル人材」を育成することを目的とする。
- ・「グローバル人材 PBL」の履修を義務付ける資格「グローバル・プロジェクト・マネジャー（GPM）」の基礎部分を構成する。
- ・企業とのプロジェクトを実践する前提としての、「公共マインド」、「グローバルマインド」、「ビジネスマインド」を区分し、養成する。また、区分に大学独自の要素として「京都」を加えて設定。京都のまちの形成や歴史・文化・産業集積の成り立ちや地域経済の特性を理解し、京都の中小企業を支える知識や教養を備えられる「内容要素」を設定した。
- ・「内容要素」加え、地域経済との「双方向性」、「企業連携」の「方法要素」も明示し設定した。
- ・全学展開しており、全学部生が本プログラムを履修することができる。

#### 特色ある取り組み（自由記述）

--

# 1 資格教育プログラムの目的・教育目標・学習アウトカム

## 1-1-I. 目的・教育目標

- ・企業とのプロジェクトを実践する前提としての、公共マインド、グローバルマインド、ビジネスマインドの養成。
- ・「地域公共」および「グローバルな課題」に関する視野を幅広く培うこと。
- ・企業人との双方向のやりとりを重ねることで、企業の活動実態や抱えている課題、そしてその社会的意義についての理解を深めること。
- ・グローバル社会の中での地域経済のあり方について、グローバル人材 PBL に進むにあたっての基礎知識の涵養。
- ・学習過程における学習者の主体的な個としての判断力の養成。
- ・公共マインドの修得及び政策形成における協働やファシリテーションの技能の修得。
- ・グローバルマインドとして、グローバルな観点から政治や歴史、文化を学べる機会の提供。
- ・ビジネスマインドとして実際の企業と連携しながら、企業理解や働くことの意義について広く学ぶこと。
- ・京都のまちの形成や歴史・文化・産業集積の成り立ちや地域経済の特性を理解し、京都の中小企業を支える知識や教養を備えること。

### 添付資料の該当箇所

添付資料 1\_1-1-1. 目的・教育目標 p1～p2

(京都府立大学 2021 年 学生便覧 p184～p185 「2 グローカル人材資格プログラム」)

## 1-1-II. 資格教育プログラムの学習アウトカム

達成目標	6-0-2 地域社会の改革や発展のための計画やプログラムの策定を、主体的に実行することができる
	6-0-3 地域社会における様々な課題に対応するために必要な知識・技能・実践方法を主体的に選択し実行することができる
	知識
	6-1-1 グローバル化する世界と地域社会の関係を理解している 6-1-4 地域社会における様々な活動と、活動をになう主体との関係の実践的把握
技能	6-2-3 対象となる業務の進行に必要な利害関係者間の調整と協働関係の構築ができる
職務遂行能力	6-3-4 業務の遂行における管理・運営への補助的な責任を分担することができる

### 1-1-III. 資格教育プログラムで育成する人材像

本プログラムは、公共マインド、グローバルマインド、ビジネスマインドの3つマインドを涵養し、学習者が地域社会の一員としての企業活動を理解し、現代のグローバル社会の中で企業が抱える課題についての知見を持てるよう設計されている。これにより、地域社会、とりわけ地域経済における企業の現実の課題に対して、グローバルな視野及び様々なアクターが連携・協働して地域を創りあげるというローカルな共創の意識をもって、主体的な個として取り組むことのできる人材を育成する。

より具体的には、本プログラムは資格 GPM の基礎部分をなすものであるため、一定の課題解決力と企業活動に関する基礎知識を涵養する。そのため双方向性をもったプログラム構成科目では、大学内外の人間と幅広くコミュニケーションをとる力を身につけ、課題の発見及び解決に資する知識と積極性を養っていく。学習者はプロジェクトを円滑に進めるための前提となる、チームワークや合意形成の能力を高め、各行為主体（アクター）間の関係を把握しつつ、それら各種アクターと良好な協働関係を構築することができるようになる。さらに企業活動を学ぶための科目の履修により、グローバル社会の中での地域経済の抱える課題についての一定の知見を獲得することができる。

加えて、本学では「全学展開」「教養科目」「京都学」という大学の特色を活かしたプログラム構成となっており、上記の人材像に加えて、学部学科あるいは学問の枠を越えて、リベラルアーツや京都学の教養を兼ね備えた上で公共マインド・グローバルマインド・ビジネスマインドをもった人材を育成したいと考えている。

学習アウトカムで言えば、グローバルな視野を持って「地域社会における様々な課題に対応するために必要な知識・技能・実践方法を主体的に選択し実行することができる」能力を持った人材と言える。

添付資料の該当箇所

添付資料 1\_1-1-1. 目的・教育目標 p1～p2（前述）

（京都府立大学 2021 年 学生便覧 p184～p185 「2 グローカル人材資格プログラム」）

### 1-1-IV. プログラムの広報

本プログラムについて、学内の学習者に対しては、学生便覧にプログラム概要を掲載するほか、プログラムのパンフレットも作成し、年度当初のキャリアガイダンスで配布、説明することで周知徹底を図っている。また、大学ホームページにて情報を得られるようにしている。

添付資料の該当箇所

添付資料 2\_1-1-IV. プログラムの広報 ①（大学ホームページによる広報）

（京都府立大学ホームページの該当箇所は、以下の URL のとおり。

URL : [https://www.kpu.ac.jp/contents\\_detail.php?co=ser&frmId=4347](https://www.kpu.ac.jp/contents_detail.php?co=ser&frmId=4347))

添付資料 3\_1-1-IV. プログラムの広報 ②（広報用パンフレット）

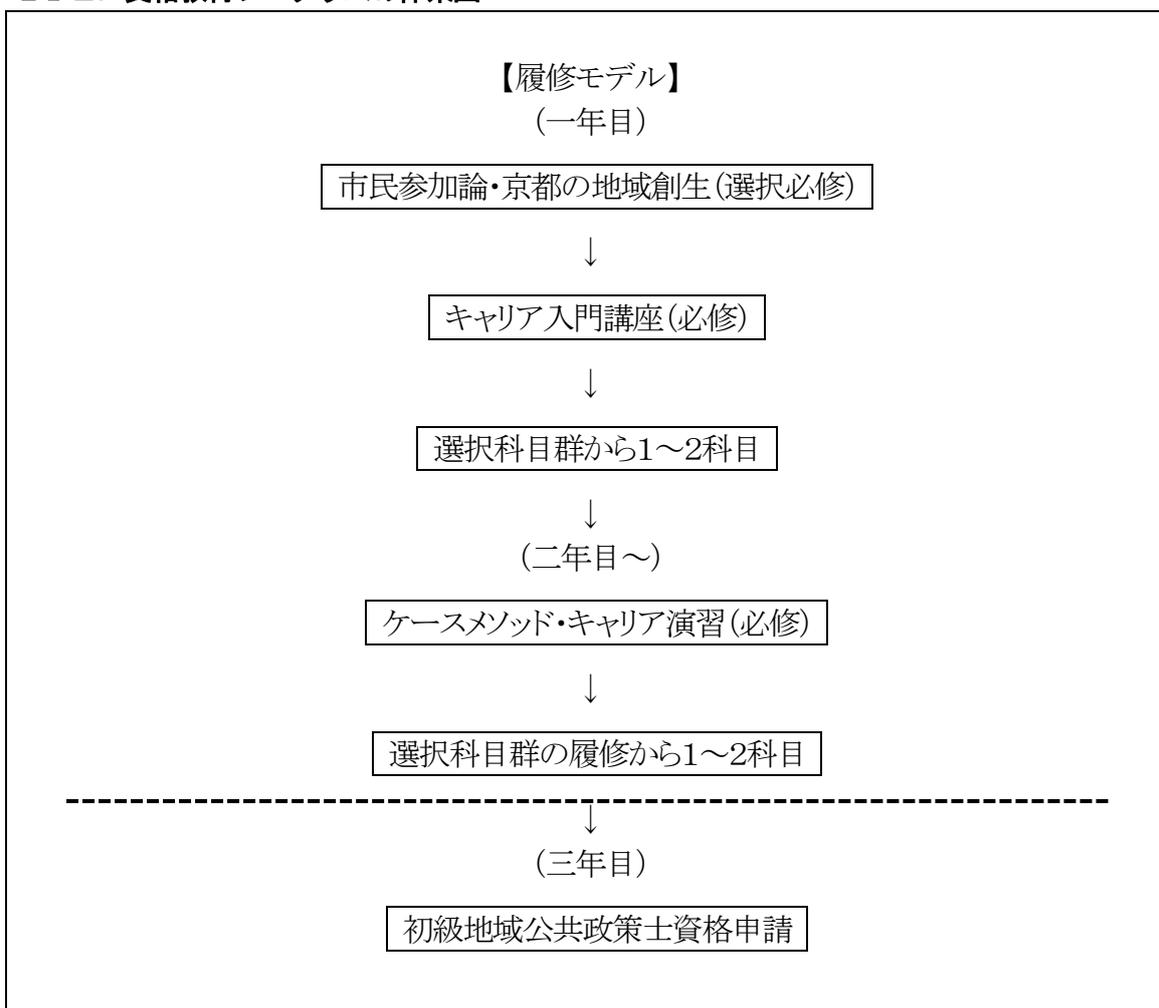
## 2 資格教育プログラムの内容

### 2-1-I. 資格教育プログラムに設置する科目（※添付資料：シラバス等）

構成科目名		担当者名	ポイント	履修時間	開講時期	科目設定	教育要素設定	備考
1	市民参加論	藤原 茂樹	2	22.5	4月～8月 配当年次:1年	選択必修	政策的思考法	1又は2の選択必修
2	京都の地域創生	奥谷 三穂	2	22.5	10月～2月 配当年次:1年	選択必修	政策研究の基盤知識	1又は2の選択必修
3	キャリア入門講座	前田 武司	1	22.5	10月～2月 配当年次:1年	必修	政策基礎としての社会人基礎力	
4	ケースメソッド・キャリア演習	松村 千鶴	2	22.5	4月～8月 配当年次:2年	必修	政策基礎としての社会人基礎力	
5	環境共生フィールド演習Ⅰ	勝山 正則 古田 裕三 福井 亘 松田 法子 佐々木 尚子	1	11.25	4月～8月 配当年次:1年	選択	政策基礎としての社会人基礎力	
6	環境共生フィールド演習Ⅱ	勝山 正則 桂 明宏 森田 一弥	1	11.25	10月～2月 配当年次:1年	選択	政策基礎としての社会人基礎力	
7	地域創生フィールド演習Ⅰ	奥谷 三穂	1	11.25	4月～8月 配当年次:2年	選択	政策基礎としての社会人基礎力	
8	地域創生フィールド演習Ⅱ*	奥谷 三穂	1	11.25	10月～2月 配当年次:2年	選択	政策基礎としての社会人基礎力	
9	アジアの歴史と文化	諫早 直人	2	22.5	4月～8月 配当年次:1年	選択	政策得意分野づくり	
10	国際政治	宮脇 昇 玉井 良尚	2	22.5	4月～8月 配当年次:1年	選択	政策得意分野づくり	

11	世界はいま (リベラルアーツ・ゼミナール)	榎原 美樹	1	22.5	8月(集中) 配当年次:1年	選択	政策得意分野づくり	
12	現代イスラーム世界の文化と社会 (リベラルアーツ・ゼミナール)	田村 うらら	1	22.5	8月(集中) 配当年次:1年	選択	政策得意分野づくり	
13	近代京都と三大学	宗田 好史 吉岡 真佐樹 並木 誠士	2	22.5	4月～8月 配当年次:1年	選択	政策得意分野づくり	
14	現代京都論	大島 祥子	2	22.5	4月～8月 配当年次:1年	選択	政策研究の基盤知識	
15	京都の歴史Ⅰ	菱田 哲郎	2	22.5	4月～8月 配当年次:1年	選択	政策得意分野づくり	
16	京都の歴史Ⅱ	小林 啓治 藤本 仁文 上杉 和央	2	22.5	10月～2月 配当年次:1年	選択	政策得意分野づくり	

## 2-1-II. 資格教育プログラムの体系図



### 【図の説明】

1年目は、「市民参加論」または、「京都の地域創生」（選択必修）において公共マインドの修得及び政策形成における協働やファシリテーションの必要性の理解、技能を修得するとともに、「キャリア入門講座」（必修）においてキャリア・デザイン教育を通して、就労による社会への参加意識を高め、地域への関心と勤労観を培う。加えて、学習者の関心に基づき、グローバル科目（「アジアの歴史と文化」「国際政治」「世界はいま」「現代イスラーム世界の文化と社会」）や京都学系科目（「近代京都と三大学」、「現代京都論」、「京都の歴史Ⅰ・Ⅱ」）を含む科目の中から選択履修する。

2年目は、「ケースメソッド・キャリア演習」（必修）において、就業や地域に関わる事例を用いたケースメソッドから課題発見・解決力を養う。加えて、学習者の関心に基づき、グローバル系科目（先述）、アクティブ・ラーニング系科目（「環境共生フィールド演習Ⅰ・Ⅱ」・「地域創生フィールド演習Ⅰ・Ⅱ」）の中から選択履修する。

時間割上、プログラムは最短で2年で修了することが可能であるが、グローバルPBLのための面接は3回生時を想定している。その意味では、本学では、初級地域公共政策士資格は2年で取得可能であるが、GPMについては3年間の履修が必要となる。

## 2-2- I. 学習アウトアムの達成に向けた教育内容の説明

### 知識

6-1-1 グローバル化する世界と地域社会の関係を理解している	
アジアの歴史と文化	日本を含むアジアの諸地域を有機的に関連づけて理解するための手順と方法を学ぶ。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。</li> <li>・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</li> </ul>
国際政治	国際政治の過程においては、国連や OSCE などの国際機構と主権国家の関係が重要である。両者の関係は、we であるといえるだろうか。NGO や民間企業等のアクターの活躍もふまえて政策主体の理解を深める。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。</li> <li>・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</li> </ul>
世界はいま (リベラルアーツ・ゼミナール)	最新の国際情勢にどのように関心を持てばよいのか、そしてそれがどう日本の社会や自分の生活と関わるのかを考える力を養う。 また、グローバル化が社会にもたらす変化の「光」と「影」の部分とは何かを、日本の視点から分析・展望し、さらに、さまざまな学科・専攻の受講生とともに、日本から世界へ何を発信してゆけばよいのかを議論できるようになる。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。</li> <li>・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</li> </ul>
現代イスラーム世界の文化と社会 (リベラルアーツ・ゼミナール)	世界三大宗教の中でイスラーム教は、信者数を急激に伸ばし存在感を強めている。しかし元々日本人にとって馴染みの薄い宗教であるうえ、9.11 以降の偏向した欧米メディアによる情報、あるいは IS などイスラーム過激派によるテロ等の発生状況も加わり、イスラームに対する誤解は強化されるばかりである。ごく基礎的なイスラームに関する知識に加え、トルコ等中東諸国を中心に現代イスラーム世界の文化と社会について学ぶ。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。</li> <li>・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</li> </ul>
6-1-4 地域社会における様々な活動と、活動をになう主体との関係の実践的把握	
市民参加論	地方自治や地域のコミュニティにおける市民参加や行政との協働、パートナーシップについての背景や変遷、その意味を学びつつ、京都府を中心に実際行われている住民自治の活動(住民やNPO、地域づくり協議会等による地域の課題解決の取組、魅力アップの活動)や民間と行政の協働の取組を事例としながら、人口減少時代を迎え、持続可能性のある地域づくりを進めるための市民参画や協働の必要性を学ぶ。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。</li> <li>・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</li> </ul>

<p>京都の地域創生</p>	<p>地域には、自然とともに生きる知恵と工夫が共同のしくみよって蓄積されている。しかしながら過疎・高齢化、都市間格差など様々な問題が連環し、地域の歴史、文化、生業などの貴重な蓄積が失われようとしている。</p> <p>地域(region)とはそもそも何か。今私たちは地域から何を学ぶべきなのか。地域本来の意義と役割を知り、移住者、六次産業、地域デザインなどをキーワードに変革に挑戦する事例から考え方と方法を学ぶ。2回生以上から参加できる「地域創生フィールド演習 1,2」との組み合わせにより個別分野を超え地域を創生していく能力を修得する。</p>
<p>キャリア入門講座</p>	<p>教員・企業等の講演とワークで構成される。社会と大学との差に気づき、社会の考え方や実際のところを理解したうえで、最終的に自力でキャリアデザインを考えることを目指す。</p>
<p>ケースメソッド・キャリア演習</p>	<p>ビジネスマインドを養い地域社会に貢献する生き方・働き方を考えるため、出版社の外部講師を招聘し、現場の事例を用いたPBLを行う。具体的には出版企画を立案する。現地訪問調査等を通して、リアリティのある課題対応案を作成した上で、プレゼンテーションを行う。</p> <p>文理合同のアクティブ・ラーニングにより、幅広い視野、コミュニケーション力、問題発見能力、倫理的判断力、企画力、プレゼンテーション力など、社会人基礎力を伸長することを目標とする。</p>
<p>環境共生フィールド演習 I・II</p>	<p>農山漁村をフィールドとして、調査や地域づくり活動への参加、ボランティア活動などを行うことによって、環境との共生を体感し、環境共生論で習得した知識を深め、人と環境をめぐる様々な課題について学習する。</p>
<p>地域創生フィールド演習 I・II</p>	<p>地域の自然と文化の中で人間として生きる基本を学び、自分の潜在能力を発見するなど自分らしい生き方を探求するきっかけをつかむとともに地域の未来を考える。</p>
<p>近代京都と三大学</p>	<p>三大学の歴史と京都の近代史を学び、京都の未来を展望し、卒業後、目指すべき将来像を見つける。誇りと自信をもち、京都に暮らす市民として京都を楽しんで貰うこと、大学生活を送る基礎教養を身につける。</p>

現代京都論	現代の京都のまちづくりの基盤ともいえる、都市経営や庶民の暮らしやまちとの関わりの変遷(まちづくり史)を学習し、さらにまちづくりの基盤・組織、コミュニティについて学習し、これらをふまえた上で、テーマごとの事象を読み解く。行政施策、NPO や民間事業者等が展開する事例、地域で展開される活動なども採用し知識を深める。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。</li> <li>・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</li> </ul>
京都の歴史 I	基礎的な知識は身につけてほしいが、単なる物知りになるのではなく、京都が歴史的にどのような特徴をもち、歴史学や考古学という学問を通して論理的に考えることを重視するとともに、京都の地で学んだ者として、その歴史的特徴を正確に説明できるような社会人になること。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。</li> <li>・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</li> </ul>
京都の歴史 II	近世・近代の京都に関する基礎的な知識を習得し、現在の京都を世界史的な視野で考察する力を養う。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。</li> <li>・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</li> </ul>

## 技能

6-2-3 対象となる業務の進行に必要な利害関係者間の調整と協働関係の構築ができる	
市民参加論	地方自治や地域のコミュニティにおける市民参加や行政との協働、パートナーシップについての背景や変遷、その意味を学びつつ、京都府を中心に実際行われている住民自治の活動(住民やNPO、地域づくり協議会等による地域の課題解決の取組、魅力アップの活動)や民間と行政の協働の取組を事例としながら、人口減少時代を迎え、持続可能性のある地域づくりを進めるための市民参画や協働の必要性を学ぶ。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。</li> <li>・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</li> </ul>
京都の地域創生	地域には、自然とともに生きる知恵と工夫が共同のしくみよって蓄積されている。しかしながら過疎・高齢化、都市間格差など様々な問題が連環し、地域の歴史、文化、生業などの貴重な蓄積が失われようとしている。地域(region)とはそもそも何か。今私たちは地域から何を学ぶべきなのか。地域本来の意義と役割を知り、移住者、六次産業、地域デザインなどをキーワードに変革に挑戦する事例から考え方と方法を学ぶ。2回生以上から参加できる「地域創生フィールド演習 1,2」との組み合わせにより個別分野を超え地域を創生していく能力を修得する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。</li> <li>・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</li> </ul>

ケースメソッド・キャリア演習	<p>ビジネスマインドを養い地域社会に貢献する生き方・働き方を考えるため、出版社の外部講師を招聘し、現場の事例を用いたPBLを行う。具体的には出版企画を立案する。現地訪問調査等を通して、リアリティのある課題対応案を作成した上で、プレゼンテーションを行う。</p> <p>文理合同のアクティブ・ラーニングにより、幅広い視野、コミュニケーション力、問題発見能力、倫理的判断力、企画力、プレゼンテーション力など、社会人基礎力を伸長することを目標とする。</p> <p>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。 ・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</p>
環境共生フィールド演習Ⅰ・Ⅱ	<p>農山漁村をフィールドとして、調査や地域づくり活動への参加、ボランティア活動などを行うことによって、環境との共生を体感し、環境共生論で習得した知識を深め、人と環境をめぐる様々な課題について学習する。</p> <p>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。 ・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</p>
地域創生フィールド演習Ⅰ・Ⅱ	<p>地域の自然と文化の中で人間として生きる基本を学び、自分の潜在能力を発見するなど自分らしい生き方を探求するきっかけをつかむとともに地域の未来を考える。</p> <p>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。 ・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</p>

## 職務遂行能力

6-3-4 業務の遂行における管理・運営への補助的な責任を分担することができる	
京都の地域創生	<p>地域には、自然とともに生きる知恵と工夫が共同のしくみによって蓄積されている。しかしながら過疎・高齢化、都市間格差など様々な問題が連環し、地域の歴史、文化、生業などの貴重な蓄積が失われようとしている。</p> <p>地域(region)とはそもそも何か。今私たちは地域から何を学ぶべきなのか。地域本来の意義と役割を知り、移住者、六次産業、地域デザインなどをキーワードに変革に挑戦する事例から考え方と方法を学ぶ。2回生以上から参加できる「地域創生フィールド演習 1,2」との組み合わせにより個別分野を超え地域を創生していく能力を修得する。</p> <p>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。 ・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</p>
ケースメソッド・キャリア演習	<p>ビジネスマインドを養い地域社会に貢献する生き方・働き方を考えるため、出版社の外部講師を招聘し、現場の事例を用いたPBLを行う。具体的には出版企画を立案する。現地訪問調査等を通して、リアリティのある課題対応案を作成した上で、プレゼンテーションを行う。</p> <p>文理合同のアクティブ・ラーニングにより、幅広い視野、コミュニケーション力、問題発見能力、倫理的判断力、企画力、プレゼンテーション力など、社会人基礎力を伸長することを目標とする。</p>

	<p>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。</p> <p>・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</p>
環境共生フィールド演習Ⅰ・Ⅱ	<p>農山漁村をフィールドとして、調査や地域づくり活動への参加、ボランティア活動などを行うことによって、環境との共生を体感し、環境共生論で習得した知識を深め、人と環境をめぐる様々な課題について学習する。</p> <p>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。</p> <p>・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</p>
地域創生フィールド演習Ⅰ・Ⅱ	<p>地域の自然と文化の中で人間として生きる基本を学び、自分の潜在能力を発見するなど自分らしい生き方を探求するきっかけをつかむとともに地域の未来を考える。</p> <p>・この授業の目標は、どの程度達成されましたか。</p> <p>・この授業はあなたにとってどれほど受講した価値がありましたか。</p>

## 2-2-Ⅱ. 教育・指導方法におけるプログラム全体の特徴

本プログラムは、教養教育科目と学部の専門科目を組み合わせ、幅広い知識基盤を形成するだけでなく、複雑に高度化した課題を冷静で複合的に分析し、行動できる判断力・問題発見能力と解決に向けた実行力を持つ人材を育成することを目標としている。

なお、本プログラムは全学展開しており、全学部生（文学部・公共政策学部・生命環境学部）が本プログラムを履修することができる。

具体的には、本プログラムでは6ポイントの必修科目を履修することにより、公共マインドとビジネスマインドを獲得し、残り6ポイントを選択科目の中から履修することで、グローバルマインド、独自要素として京都学の知識やスキル、コンピテンシーを体系的かつバランスよく獲得できるよう工夫している。

### 2-3. 対象とする学習者と開講形態

本プログラムは、本学の全学生のうち、グローバル人材資格（GPM）に関心がある者を主たる学習者と想定している。選択科目の中には、元々履修者数に制限のある教養教育共同化科目が組み込まれているため、一部、抽選となる科目もあるが、科目数の選択肢の幅を増やすことで、抽選に漏れた学生が不利益を被らないよう工夫している。

### 2-4. 学習者への周知

先述のとおり、本プログラム全体については、学内の学習者に対しては、学生便覧にプログラム概要を掲載するほか、プログラムのパンフレットも作成し、年度当初のキャリアガイダンスで配布、説明することで周知徹底を図っている。また、大学間連携共同教育推進事業で作成した共通パンフレットのほか、大学のホームページから情報を得られるようにしている。

教育目標、学習アウトカム、科目内容、開講形態、資格教育プログラムの修了要件、成績評価方法などについては、学習者全員に配布している学生便覧のほか、各科目のシラバス（いずれも公開）に明示するなどして、学習者への周知を図るとともに、講義の際に口頭でも説明をすることも心掛けている。

添付資料の該当箇所

添付資料 2\_1-1-IV. プログラムの広報 ①（大学ホームページによる広報）（前述）

（京都府立大学ホームページの該当箇所 URL: [https://www.kpu.ac.jp/contents\\_detail.php?co=ser&frmId=4347](https://www.kpu.ac.jp/contents_detail.php?co=ser&frmId=4347)）

添付資料 3\_1-1-IV. プログラムの広報 ②（広報用パンフレット）（前述）

添付資料 4\_2-1-I. 資格教育プログラムに設置する科目（16科目シラバス）（前述）

### 3. 学習効果の測定

#### 3-1-I. 成績評価方法と学習者への明示

成績評価方法は科目ごとに担当者が定め、すべてシラバス（公開）にて明示している。  
学習者への明示については、ガイダンスでの説明、パンフレットやシラバスを通じて周知している。  
また、講義の際に口頭で説明をすることも心掛けている。

添付資料の該当箇所

添付資料 4\_2-1-I. 資格教育プログラムに設置する科目（16科目シラバス）（前述）

#### 3-1-II. ポイント認定の基準

原則として、1単位=1ポイントであり、1科目2単位=2ポイントとしている。  
なお、「環境共生フィールド演習Ⅰ・Ⅱ」、「地域創生フィールド演習Ⅰ・Ⅱ」、「世界はいま」「現代イスラーム世界の文化と社会」については1単位の科目なので、1ポイントとしている。  
本プログラムの修了要件は12ポイントであるので、学習者は必須科目から3科目6ポイントに加え、選択科目の中から3～5科目で6ポイント、すなわち全体で6～8科目で12ポイントを取得することが必要である。

添付資料の該当箇所

添付資料 1\_1-1-1. 目的・教育目標 p1～p2 （前述）  
（京都府立大学 2021年 学生便覧 p184～p185 「2 グローカル人材資格プログラム」）

#### 3-2. 外部機関との連携と評価

本プログラム構成科目のうち「ケースメソッド・キャリア演習」は、企業から外部講師を招聘して連携開講して実施しており、グループの成果物についての講評内容を成績評価に加味している。また「環境共生フィールド演習Ⅰ、Ⅱ」についても提言を行うフィールドについては同様である。  
外部機関との連携については、プログラム構成科目の中ではないが、GPM 資格を取得するためのグローバルPBL については、(NPO) グローカル人材開発センターと連携をしていく。  
本学としてはグローバルPBL に参加する学生の面接選考を行っている。

添付資料の該当箇所

添付資料 01\_1-1-1. 目的・教育目標 p1～p2 （前述）  
（京都府立大学 2021年 学生便覧 p184～p185 「2 グローカル人材資格プログラム」）

### 3-3- I.学習アウトカムを評価する基準と方法

学習者の学習アウトカムの評価については、シラバスによって学習者に提示しているが、科目によって異なり、単にペーパーテストの得点のみで評価せず、以下のとおり、総合的に評価している。ただし、レポートを中心に評価している科目もある。

(例)

「市民参加論」： 期末レポート 70%、出席 15%、授業態度 15%

「キャリア入門講座」：授業に対する姿勢30%、ワークの成果40%、試験30%で総合的に評価する。

「ケースメソッド・キャリア演習」：出席、レポート試験、演習での成果物・発表、チームワーク等について自己評価・相互評価・企業評価を加味して総合的に評価する。

「世界はいま」：ディスカッションでの発言など授業への積極的な参加や、授業終了時のミニレポートなどを、総合的に評価する。

「京都の歴史」 授業への参加姿勢（毎回配布する小レポート）と期末のレポートによって評価する。

添付資料の該当箇所

添付資料 4\_2-1- I. 資格教育プログラムに設置する科目（16 科目シラバス）（前述）

## 4.資格教育プログラムの管理・運営体制

### 4-1. 管理・運営体制

プログラムの管理・運営については、科目履修部分とPBL参加部分とを区分し、前者の「グローバル人材基本科目」は教務部委員会で協議を行い、後者の「グローバル人材PBL」はキャリア育成推進委員会規程に基づいたキャリア育成プログラム委員会で担当することになっている。両委員会とも教務部長が委員長を務め、両委員会の庶務も学務課教務係が処理することになっており、管理・運営における意思疎通は問題なく、プログラムは継続的かつ円滑に実施されることになっている。

学生の資格取得の流れを記すと、学生は「グローバル人材基本科目」の履修を証明する書類（成績証明書は証明書自動発行機により即時入手できる）と「グローバル人材PBL」の修了証明書（グローバル人材開発センターが発行する）、GPM 資格認定交付申請書（同）を準備してグローバル人材開発センターに申請することで資格が付与されることになる。また、初級地域公共政策士だけの資格を希望する学習者は「グローバル人材基本科目」の履修を証明する成績証明書と初級地域公共政策士申請書（COLPUが発行する）をCOLPUに提出すれば、資格が付与される。

なお、本プログラムは、学内では、他プログラムと名称を統一する関係上、「グローバル人材資格プログラム」という名称を採用しているが、対外的には「グローバル人材プログラム」の名称を採用する。

添付資料の該当箇所

添付資料 5\_4-1. 京都府立大学 教務部委員会規程 p 1

（企画委員会の設置）

第6条 委員会は、本学の教育課程、教育プログラムなどの企画・立案、運営に関する全学的事項を協議し、必要な提案を行うため、次の10名の委員からなる企画委員会を設置する。

添付資料 6\_4-1. 京都府立大学キャリア育成推進委員会規程等 p3

「キャリア育成プログラム委員会の組織等に関する内規」

（協議事項）

第4条 プログラム委員会は、次に掲げる事項を協議し、処理する。

- (1) キャリア育成プログラムの策定に関する事項
- (2) 学生のキャリアサポートに関する事項
- (3) その他、本学学生のキャリア育成の実践に関する事項

#### 4-2. 科目内容の点検・改善

学習者からの意見等については、プログラム評価等の結果を通じて把握し、教務部委員会企画委員会における「グローバル人材基本科目」の点検・改善に活用している。

添付資料の該当箇所

添付資料 5\_4-1. 京都府立大学 教務部委員会規程 p 1 (前述)

(企画委員会の設置)

第 6 条 委員会は、本学の教育課程、教育プログラムなどの企画・立案、運営に関する全学事項を協議し、必要な提案を行うため、次の 10 名の委員からなる企画委員会を設置する。

#### 4-3. 学習者からの異議申立

成績評価及びポイント認定の基準や方法について、各科目のシラバスにて学習者に明示している。学習者への明示については、ガイダンス時や各科目の講義にて口答で説明している。学習者からの異議申立については、学生便覧にて教務部が窓口となることを明文化しており、本プログラムもその仕組みの中で対応していく。ただし、実際の運用する中でさらに充実した制度に改善する必要性が生じた際には、本プログラムの責任者は教務部長であることもあり、柔軟に対応する。

添付資料の該当箇所

添付資料 7\_4-3. 学習者からの異議申立 p1

(5) 成績に対する異議申し立て

当該学期の成績について、次の場合に限り異議を申し立てることができます。

- 1 成績の誤記入等、明らかに担当教員の誤りであると思われるもの
- 2 シラバス等により周知している成績評価の方法に照らして、評価に疑義があると思われるもの

## 5 教員及び講師

### 5-1 教員及び講師の構成

本プログラムの必修科目には、「市民参加論」「キャリア入門講座」「ケースメソッド・キャリア演習」を配置している。いずれの科目も、多様な企業・機関からゲストスピーカーや外部講師を招聘し、ワークショップやディスカッションを含むPBL型講義を実施している。

これまで、学識経験のほか、企業、NPO、行政、大学等でのキャリアを積んだ教員が協働やファシリテーションの技法の指導を中心に参加型講義の担当してきた。

「キャリア入門講座」「ケースメソッド・キャリア演習」を担当する前田は、就労関係のサポートをする実務家教員として、長年の蓄積を有しており、働き方や生き方、就労観や就労を通じた社会参加について、実務を通して多くの人材をサポートした経験を有するスペシャリストである。

また、「環境共生フィールド演習Ⅰ・Ⅱ」の勝山や「地域創生フィールド演習Ⅰ・Ⅱ」の奥谷は、フィールド演習においては、高名な教員である。

加えて、選択科目として「グローバル」「リベラルアーツ」「京都学」「アクティブ・ラーニング」をキーワードに本学の教養教育を牽引する講師陣が担当している。「現代京都論」を担当する宗田は、京都府内はもとより国際機関から京都府外での公職経験があり、都市計画の分野では京都を代表する研究者である。

こうした厚い講師陣に加え、本学だけでは足らざる専門性については非常勤講師の力も借りながら、プログラムの運営している。

### 5-2 教員・講師の指導能力

教員名	種別	担当科目	評価時使用欄
藤原 茂樹	第1号教員	市民参加論	
小林 啓治	第1号教員	京都の歴史Ⅱ	
宗田 好史	第1号教員	近代京都と三大学	
諫早 直人	第1号教員	アジアの歴史と文化	
菱田 哲郎	第1号教員	京都の歴史Ⅰ	
勝山 正則	第1号教員	環境共生フィールド演習Ⅰ	
古田 裕三	第1号教員	環境共生フィールド演習Ⅰ	
福井 亘	第1号教員	環境共生フィールド演習Ⅰ	
松田 法子	第1号教員	環境共生フィールド演習Ⅰ	
佐々木尚子	第1号教員	環境共生フィールド演習Ⅰ	
勝山 正則	第1号教員	環境共生フィールド演習Ⅱ	
桂 明宏	第1号教員	環境共生フィールド演習Ⅱ	

森田 一弥	第1号教員	環境共生フィールド演習Ⅱ	
奥谷 三穂	第1号教員	京都の地域創生・地域創生フィールド演習Ⅰ	
奥谷 三穂	第1号教員	京都の地域創生・地域創生フィールド演習Ⅱ	
松村 千鶴	第1号教員	ケースメソッド・キャリア演習	
前田 武司	第2号教員	キャリア入門講座	
宮脇 昇	第1号教員	国際政治	
玉井 良尚	第1号教員	国際政治	
榎原 美樹	第2号教員	世界はいま (リベラルアーツ・ゼミナール)	
田村うらら	第1号教員	現代イスラーム世界の文化と社会 (リベラルアーツ・ゼミナール)	
宗田 好史	第1号教員	近代京都と三大学	
吉岡真佐樹	第1号教員	近代京都と三大学	
並木 誠士	第1号教員	近代京都と三大学	
大島 祥子	第1号教員	現代京都論	
菱田 哲郎	第1号教員	京都の歴史Ⅰ	
小林 啓治	第1号教員	京都の歴史Ⅱ	
藤本 仁文	第1号教員	京都の歴史Ⅱ	
上杉 和央	第1号教員	京都の歴史Ⅱ	

## その他：学習者の受入れ状況と認証期間における開講予定表

### 1 申請時の資格教育プログラムの登録者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
登録者数	0名	0名	2名	4名	5名	2名	1名

### 2 申請時の科目ごとの開講予定表

		(西暦)	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
科目名			2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1	市民参加論		○	○	○	○	○	○	○
2	京都の地域創生		×	○	○	○	○	○	○
3	キャリア入門講座		○	○	○	○	○	○	○
4	ケースメソッド・キャリア演習		○	○	○	○	○	○	○
5	環境共生フィールド演習Ⅰ		○	○	○	○	○	○	○
6	環境共生フィールド演習Ⅱ		○	○	○	○	○	○	○
7	地域創生フィールド演習		×	○	×	×	×	×	×
8	地域創生フィールド演習Ⅰ		×	×	○	○	○	○	○
9	地域創生フィールド演習Ⅱ		×	×	○	○	○	○	○
10	アジアの歴史と文化		○	○	○	○	○	○	○
11	国際政治		○	○	○	○	○	○	○
12	世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)		×	×	×	○	○	○	○
13	アメリカと中国はいま (リベラルアーツ・ゼミナール)		○	○	○	×	×	×	×
14	現代イスラーム世界の文化と社会 (リベラルアーツ・ゼミナール)		○	○	○	○	○	○	○
15	近代京都と三大学		×	×	○	○	○	○	○
16	都学事始-近代京都と三大学-		○	○	×	×	×	×	×
17	現代京都論		○	○	○	○	○	○	○
18	京都の歴史Ⅰ		○	○	○	○	○	○	○
19	京都の歴史Ⅱ		○	○	○	○	○	○	○